

「^{やまと}續 ^{うた}倭詩」を 一家に一冊！！

札幌市の「まほろば」さんから『続 倭詩』が手元に届きました。

翌日 早朝 3時から阿部一理が読み始め、感動を言いたいのを押さえて 7時に事務所に連絡が来ました。

「素晴らしい文章と語彙の多さ、構成の素晴らしさ。11月に思い切って北海道に出向いて周平さんに会って良かった。

29項目の一つ一つが独立した珠玉の逸品だ。『情緒』のバイブルです。人生の3本の指に入る本だ。」と。

阿部事務所でも購入が可能となります。

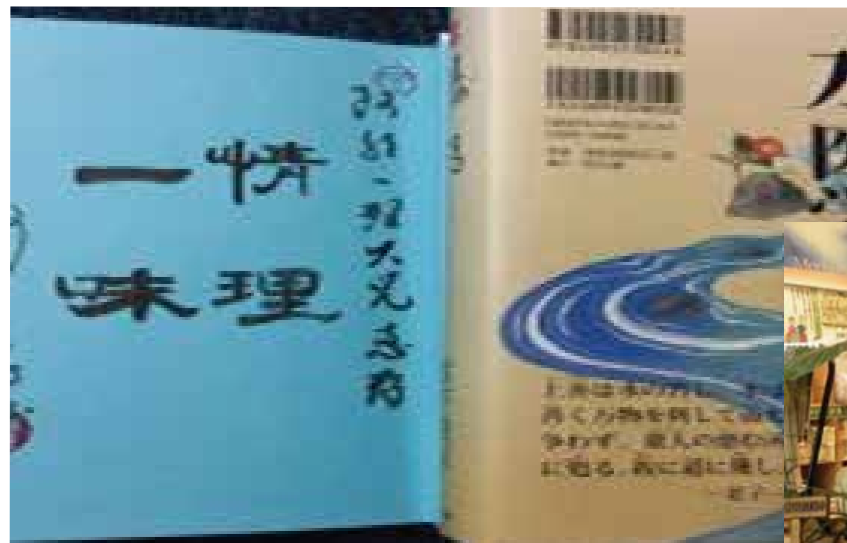
「食養の道」事務所 松浦 洋江

『続 倭詩』

食と水、農業、文化、芸術、哲学、宗教、どこを取っても「驚愕の書」である。かくも巧みにあやつられた日本語を私は知らない。この才は、一体どこから？



IDP 出版
2800 円（税別）



戦争の愚かさ、人が人を殺めることの哀しさ・・・・・・・・。

歌手の大貫妙子さんの父君「大貫健一郎氏」が何度も奇蹟的に命を落とさずに特攻隊の生き残りとして帰って来た時の軍参謀の仕打ちの狂気は、まさに戦争が人を悪魔に変え、敵味方の別なく地獄に落とし入れる様には、胸がつぶれる。

世界中の大きな事件や革命、戦争は計画通りに起きていると言う「都市伝説」がある。すると第三次世界大戦は、もう既に始まっているのか？

人種、宗教、国家、富める者と貧しき者との対立が益々激しさを増している。その対立を煽られ、人類は滅亡へと突き進み、戻る道はないかの様である。

そんな折の『続 倭詩』である。

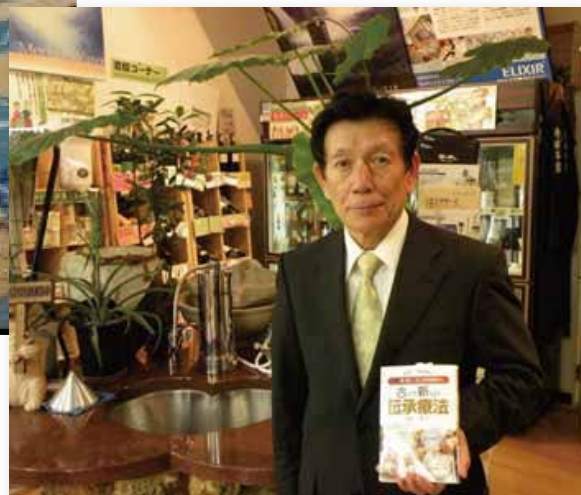
209 頁から『アリランと^{やまと}倭し、^{うるわ}美し』この一話だけでも一刻も早く日韓両国民に読んでもらいたい。

『福島奇蹟、奇蹟の福島』の一節。

「土が、微生物が放射能を・・・・・・」を読んで思わず立ち尽くした。

そして『母の^{かんし}諫死、師の^{けいさく}警策』、昭和の傑物「田中^{きよはる}清玄」を、死をもって諫めた母の存在に絶句。

『散華の海、帰郷の山』は、泣けた。日本中の人に泣いてほしい。いや世界中の人に泣いてほしい。



「・・・・・・・・まず両国が歴史の^{えんげん}淵源を学び、お互いに国造りに協力を惜しまなかった古代に遡り、歩を並べて行くことが第一義ではなかろうか。そこを突き破ってこそ、両国の新しき夜明けは来るものを信ずる。」

衝撃の歴史的明証を知らされた。

彼の「アリラン」の詞は、^{やまとたけるのみこと}倭健命の望郷の詩に通じていたとは・・・・。

翻訳は難解を極めるだろうが、人類のバイブルとして世界中の各家庭に置いて欲しい。

眞の平和を心の底から念う宮下周平、 渾身の書 !!!

著者曰く 500 回は読んだ、と。

阿部一理も 100 回は読みたい。

古来『読書百遍意おのずから通ず』と。

まさに 100 回読むに、耐え得る文章と思います。

食養指導家 阿部 一理